

## 刊行にあたって

京都府立大学文学部歴史学科では、京都府下を中心に、地域の歴史や文化遺産に対する研究をおこない、その成果を文化遺産叢書として2008年度以来公刊してきた。その第21集となる本書は、京都市中京区山伏山町に関する科学研究費補助金「聖地・霊場の成立についての分野横断的比較研究」の成果をまとめたものである。京都市では、本叢書同第18集『京都東山・三嶋神社文書調査報告』（2019）、第19集『京都雲ヶ畑・波多野六之丞家文書調査報告』（2020）の他、『京都地域情報・文化遺産データベースの展開・活用―「郡村誌」の地図化と二ノ瀬・岡崎を事例に―』（2014）、『上賀茂神社・上賀茂地区の地域史研究』（2015）につづく5冊目の調査研究の成果となる。

本書は、数年間にわたる共同研究のなかで実施した、山伏山町文書調査の成果、研究をまとめている。この調査では、所蔵者である公益財団法人山伏山保存会の方々のご協力をいただいた。大学のみでは調査範囲・方法が限られることも多く、このような地域との連携・協働がこれからの文化遺産の調査・活用では重要となる。調査の成果報告を山伏山町で実施し、大学での実習や研究の様子を地域に直接伝えられたことは、地域との円滑で良好な関係に繋がり、学生にとっても貴重な経験となった。また、本書内では、調査の参加者による山伏山町文書に関するコラムを6本掲載している。山伏山町の歴史の一面がうかがうことができる一冊となった。

最後となるが、この調査の最中に、山伏山保存会・理事であった藤本佳裕氏が逝去された。調査にあたり多大なご協力をいただいた藤本氏に衷心より感謝の意を表すとともに、心よりご冥福をお祈り申し上げたい。

京都府立大学文学部歴史学科